

2009年3月期第2四半期 決算説明会 代表取締役社長 辻本春弘 説明要旨

2009年3月期第2四半期 事業戦略資料: 概況

2009年3月期上半期の各事業の状況および下期計画についてご説明させていただきます。

P.3-8 コンシューマ用ゲームソフト事業

まずは、コンシューマ用ゲームソフト事業の上期実績です。上期は昨年度末に発売した『モンスターハンターポータブル 2nd G』の国内でのリピート出荷が好調であったため、期中 160 万本達成し、累計では約 260 万本出荷いたしました。また、新たな販売拠点としまして、今夏にフランスの販売子会社の設立を発表しております。これにより、欧州地域においては英語圏、ドイツ語圏に次いで 3 つめの販売拠点の設立となりました。また、先日の東京ゲームショウにおいて発表された『日本ゲーム大賞 2008』では『モンスターハンターポータブル 2nd G』が大賞を受賞し、かつ優秀賞には『デビルメイクライ 4』、また今後の期待タイトルとして『バイオハザード 5』、『モンスターハンター3(トライ)』、『逆転検事』がフューチャー賞を受賞し、当社タイトルへの期待度も上がっていると感じております。また、CEDEC AWARD では、『MT フレームワーク』技術が最優秀賞として、同業の技術者の皆様から評価をいただきました。

上期の販売タイトルについては、『モンスターハンターポータブル 2nd G』の販売が 160 万本を達成いたしました。また『ロストプラネットコロニーズ』は約 40 万本、『大神』は約 30 万本を出荷したものの、やはり『モンスターハンターポータブル 2nd G』の貢献が大きかったという状況です。

続いて上期の売上および各地域の販売数量です。上期につきましては、前年を上回る売上高を達成したこと、かつリピート商品の販売が多かったために、前年より収益が改善されています。課題としては、北米・欧州において新タイトルが導入できず、販売数量が前年を下回ったことです。

続いてコンシューマ用ゲームソフト事業の下期戦略です。下期は海外戦略の結実を目指すため、グローバルで成功を収めるタイトルを準備しております。まず、大型タイトルをマルチプラットフォーム対応で順次発売いたします。『バイオハザード 5』、『ストリートファイターIV』などにおいて、マルチプラットフォームでの販売を計画しております。また、『デットライジング』は、過去に Xbox 360 で開発・販売をおこないましたが、Wii のコントローラーで新たな遊びを提供すべく、移植して発売いたします。また、海外を中心に開発を進めた、海外ユーザーの嗜好にあったタイトルの発売も予定しております。『バイオニックコマンドー』、『Moto GP 08』、デジタル配信の『Super Puzzle Fighter』などを、マルチプラットフォームにて展開いたします。また、以前からご説明しております通り、当社のゲームコンテンツの映画化についても進めてまいります。『バイオハザード:ディジェネレーション』は、2008年10月より国内で公開しております。また

『ストリートファイター：ザ・レジェンド・オブ・チュンリー』は、来年の2月公開です。これら映画展開は、『バイオハザード:ディジェネレーション』については家庭用ゲーム『バイオハザード 5』と、『ストリートファイター ザ・レジェンド・オブ・チュンリー』については同じく家庭用ゲームの『ストリートファイターIV』と連動させ、映画・映像マーケティングと、ゲームのマーケティングをミックスすることで、ゲームソフトの収益の最大化を図ります。

続きまして、コンシューマ用ゲームソフト事業下期の販売計画です。各地域にて前評判の高い『バイオハザード 5』の計画本数を変更し、事業業績を上方修正させていただきました。『バイオハザード 5』につきましては、期初計画の230万本に約100万本を追加し、325万本としております。それ以外では『ストリートファイターIV』、『バイオニックコマンドー』、『デットライジング ゾンビのいけにえ』の発売を予定しております。これにより、売上高は約60億円上方修正し643億円、販売本数は約120万本追加して1,920万本としております。通期計画本数の内訳としましては、『バイオハザード 5』が95万本増加し、残りは国内における『モンスターハンターポータブル 2nd G』の廉価版およびリピーター販売で約25万本を見込んでおります。

P.9-10 アミューズメント施設運営事業

続きまして、アミューズメント施設事業の上期状況です。昨年から引き続き市場はかなり厳しい状況が続いています。上期は前年に対して、既存店ベースで遺憾ながら84%の売上となりました。事業を取り巻く環境での様々な問題により、このような状況となっております。売上高では前年を上回っておりますが、これは前期の新店舗開店によるものです。一方で既存店の収益減少を補完できず、利益は前年を下回りました。また、上期における出店は1店舗、退店も1店舗です。下期では、収益改善のため効率の良い出店を念頭に置き、新規出店を5店舗、また不採算店4店舗を退店の予定です。

下期の見通しにつきましては、昨年度から引き続き業況が好転しなかったことも踏まえ、通期計画を下方修正いたしました。今後取るべき対応としては、やはり不採算店舗の閉店を進めて、リソースの再投入を行い既存店の収益改善に取り組みます。また新規出店に関しても高収益が見込める案件を精査して出店をまいります。既存店はこのような状況なので、ディベロッパー各社への賃料減額の交渉を引き続き行います。さらに経費削減を徹底することで、原価の調整による収益の改善を図っていきたいと考えています。ただ、下期についても既存店売上の急回復は見込めませんので、業績計画では上記のようなスクラップ&ビルドを徹底することで営業利益の黒字確保を目指します。

P.11-12 業務用機器販売事業

引き続き業務用機器販売事業の上期状況です。アミューズメント施設市場が回復しておらず、当事業においても上期は苦戦を強いられました。特に去年・一昨年まで好調であったメダルゲーム機・プライズゲーム機の販売が、市況の悪化により低調に推移しております。一方ビデオゲーム機の販売が善戦し、『戦国 BASARA X (クロス)』、『Fate Unlimited code』、『ストリートファイターIV』が貢献したため、全体としては計画通りの着地となりました。

続いて下期の計画です。下期は上期と同様、新規ビデオゲーム機の投入とカードゲームのリピーターの販売を中心に事業の展開を行ってまいります。過去において主力商品であったメダル機、プライズゲーム機は下期も引き続き低調に推移する見込みです。このような状況を考慮し、通期計画を下方修正いたしました。ビデオゲーム機につきましては、『タツノコ Vs.カブコン』、および同業他社様と共同で行っております大型タイトルを期末までに販売し、上記2タイトルを中心に計画達成を目指してまいります。前年比で見ると、売上では上回り、利益では下回る想定です。

P. 13-14 コンテンツエキスパンション事業

続きましてコンテンツエキスパンション事業の上期実績です。

P&S 事業については、先程会長と阿部からもご説明しましたが、受託事業の山佐様「バイオハザード」は好調に販売が推移しており、過去から手がけている受託事業は引き続き成果が出ております。一方で、新たな展開である株式会社エンターライズとの協業ですが、販売力に問題があり、計画を大きく未達となりました。

また、モバイルコンテンツ事業でも、昨年より好調に推移していましたが「逆転裁判」シリーズに一服感が出まして、それを補う為のタイトルがこの上期に配信できなかったため、モバイルコンテンツの国内は上期の収益が減少しております。また、海外では、北米はカジュアルゲームを中心に展開しており、収益が改善されています。ただ、やはりP&S事業とモバイルコンテンツ事業国内の落ち込みが激しく、前年同期を大きく下回っております。

続いて下期の戦略です。P&S事業は、株式会社エンターライズを下期に子会社化し、体質の早期改善を図っていきます。しかし、一号機「春麗にまかせチャイナ」の推移から、早期に改善の成果が見込まれないリスクも考慮して、通期計画は見直しております。下期は新たに1機種を販売する計画です。

また、モバイルコンテンツ事業の国内では、先程申しあげた「逆転裁判」に次ぐコンテンツとして、「モンスターハンター」シリーズを展開しておりますが、「逆転裁判」の落ち込みを補完するだけの収益には至っておりません。今後は、「逆転裁判」の次作の開発も下期から進め、来期以降に展開することを考えております。また、海外におけるモバイルコンテンツ事業では、北米は上期同様、ライセンスのカジュアルゲームが好調に推移しており、今後も新規カジュアルゲームを

新たに投入して計画を達成する見込みです。欧州についても、北米主導の経営改善を行いまして、収益の改善を図ります。ただやはり上期の落ち込みに加え、下期も現状大きな改善を見込めておりませんので、誠に遺憾ですが、通期計画については前期を大きく下回る数字に下方修正しております。

P15 2009年3月期業績予想

2009年3月期の業績予想としましては、アミューズメント施設運営事業やコンテンツエクspansion事業が苦戦を強いられておりますが、コンシューマ用ゲームソフト事業の『バイオハザード5』の販売本数を上方修正しておりますので、通期の計画に変更はありません。1株当たりの当期純利益については139円70銭、配当については中間が記念配当5円含む20円、期末15円の年間35円としております。

以上で2009年3月期第2四半期決算の詳細の説明を終わらせていただきます。